

教 科	国 語		科 目	現代の国語	単位数	2
学 年	1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新 現代の国語（三省堂）				
副教材（出版社）		新 現代の国語 学習課題ノート（三省堂）				
授業の概要		講義や、グループによる言語活動を通して、社会生活に必要な国語の基礎・基本的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力を養う。				
授業の目標		1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 2 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 3 読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者と関わろうとする。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 わかり合うために ・伝え合いに大事なことを考える ・届く言葉、届かない言葉 2 確かな情報を伝えるために ・情報はつくられる ・ひとまず、信じない 6 説得力を高めるために ・折々のことば		・情報を取り出したり、情報と情報を関連づけて解釈したりして、考えを深める。 ・図書館利用のルールや、情報収集の仕方を確認する。 ・図表をもとに考え、理解したことや解釈したことを発表する。 ・情報の編集について考える。 ・筆者の考え方を知り、自分の考えとの共通点を探る。 ・本文や資料の引用の仕方を理解する。 ・主張と根拠の関係や、引用することの効果を考える。		
	2 学 期	4 よりよい読み手になるために ・読むことのレッスン ・水の東西 5 場に応じて伝えるために ・読み比べるー海ガメの無念 ・構成や展開を意識して発表する 3 情報を生かすために ・人が死なない防災 ・評価した情報をまとめる		・表現の仕方の特徴や課題などを明らかにする。 ・事例と主張との関係を確認する。 ・文章を読み比べ、表現方法の違いに気付く。 ・相手を意識して、自分の考えを発表する。 ・集めた情報を学び、まとめる。 ・集めた情報を整理したり、適切に書き換えたりする。 ・自分の考えを、根拠を明確にして表現する。		
	3 学 期	7 よりよい書き手になるために ・ありのままの世界は見えない ・ものとことば まとめ～言葉で世界を豊かに		・筆者の説明の方法を理解する。 ・事例と主張との関係を確認する。 ・言葉は、認識や思考を支える働きがあることを理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。		「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしているか。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしているか。	
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	国 語		科 目	言語文化	単位数	2
学 年	1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		高等学校新編言語文化(第一学習社)				
副教材（出版社）		高等学校新編言語文化 学習課題ノート(第一学習社)				
授業の概要		講義や、グループによる言語活動を通して、社会生活に必要な国語の基礎・基本的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力を養う。				
授業の目標		1 言語活動を通して語彙を豊かにし、的確に読んで理解する力、効果的に表現する力を身に付ける。 2 文章の読解を通して、ものの見方、感じ方を深め、論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 3 古典を読むために必要な知識や、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化を尊重する態度を育てる。				
年間学習計画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 古文入門 ・古文の学習 ・鳩と蟻のこと ・古文を読むために① ・古文を読むために② 2 漢文入門 ・漢文の学習 ・訓読に親しむ(一)～(三) ・漢文を読むために①～③ 3 小説を読む(一) ・よるこびの歌		・古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・文語のきまりを理解する。 ・現代語訳と対照して内容を理解させ、作品に表れるものの見方や考え方を捉える。 ・我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を持つ。 ・訓読するための基礎知識を習得する。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。		
	2 学 期	1 古文に親しむ ・児のそら寝 ・古文を読むために③ 2 小説を読む(二) ・羅生門 3 故事成語 ・狐借虎威 ・故事成語の由来と意味を調べる 4 漢詩の鑑賞 ・唐詩		・説話の内容や展開を的確に捉える。 ・古今異義語を理解させ、語彙を豊かにする。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・登場人物の行動や心理を読み解き、内容や展開を捉える。 ・訓読に慣れ、内容や展開を的確に捉える。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりを理解する。 ・表現技法を理解し、詩に詠まれた情景や心情を読み取る。		
	3 学 期	1 物語を楽しむ ・伊勢物語 筒井筒 2 伝統と文化 ・祭りの笛 ・「祭り」をテーマに随筆を書く		・歌物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。 ・内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。		
観点別評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしているか。		「書くこと」「読むこと」に粘り強く取り組み、論理的に考える力、共感し想像する力、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、深めようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しんで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持とうとしているか。	
備考	各学期の定期考査までの学習のまとめりと、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科		地理歴史	科 目	地理総合	単位数	2
学 年		1 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材（出版社）		地理ワークブック（愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会 地理部門）				
授業の概要		教科書と副教材をもとに授業を進め、地理的事象に対する関心と課題意識を高めるとともに、地図及び統計資料を活用して、情報を選択・活用する力を養う。また、ワークブックの作業などを通じて、地理的技能を身に付ける。				
授業の目標		環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察するとともに、グローバルな視点から国際理解のあり方を、地域的な視点から防災などの諸課題への対応を考察し、地図やG I Sなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 部 地図でとらえる現代世界 1 地図と地理情報システム 2 結びつきを深める現代世界 2 部 国際理解と国際協力 1 生活文化の多様性と国際理解		・現代世界のさまざまな地理情報について、地図やG I Sなどを用いて、その情報を収集してまとめる技能を身に付ける。 ・現代世界の地域構成について、地図の読図などにより、国家間の結び付きなどを多角的に考察する。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。		
	2 学 期	2 地球的課題と国際協力 (1) 地球環境問題 (2) 資源エネルギー問題 (3) 人口問題 (4) 食料問題 (5) 都市・居住問題		・世界各地で見られる諸問題を基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて理解する。 ・地球的課題について、持続可能な社会づくりなどに着目して、現状や要因、解決の方向性などを多面的に考察し、表現する。 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		
	3 学 期	3 部 持続可能な地域づくり 1 自然環境と防災 2 生活圏の調査と地域の展望		・様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、まとめる地理的技能を身に付ける。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地図やG I Sなどを用いて、地理に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。 世界の生活文化の多様性や地球的課題への取組などを理解している。		地理に関わる事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。		知識及び技能、思考力、表現力を粘り強く身に付けようとしている。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	数 学		科 目	数 学 I	単位数	3
学 年	1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		最新数学 I（数研出版）				
副教材（出版社）		パラレルノート数学 I（数研出版）				
授業の概要		数と式、方程式と不等式、2 次関数、データの分析は中学校で既習の内容を復習し発展させたものである。集合と論証、三角比は新しい内容である。				
授業の目標		数と式、集合と論証、2 次関数、データの分析、三角比について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 章 数と式 第 1 節 数と式 第 2 節 実数 第 3 節 1 次不等式 第 3 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ		・整式についての加法、減法、乗法の計算及び展開公式・ 因数分解公式を自在に使いこなせるようにする。 ・不等式の性質を理解するとともに、1 次不等式の解き 方を修得する。 ・2 次関数のグラフが放物線であることを理解し、式変 形をし、グラフを描けるようにする。2 次関数の最大・最小を理解し、具体的な問題に応用できるように する。		
	2 学 期	第 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比 第 2 節 正弦定理・余弦定理		・2 次関数のグラフと 2 次方程式の関係を理解し、2 次 方程式の解を求める様々な方法についての技能を修 得するとともに、2 次不等式を解けるようにする。 ・三角比としてのタンジェント、サイン、コサインの意 味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係 を使えるようにする。 ・座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。 ・一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積 の公式と、正弦定理、余弦定理を導き、それらを活用 できるようにする。		
	3 学 期	第 5 章 データの分析 第 2 章 集合と命題		・データを整理する必要性を理解させ、度数分布表、ヒ ストグラム、相対度数、箱ひげ図、相関係数を知る。 ・集合についての基本的な用語やその意味を理解する。 命題の真偽、必要条件・十分条件、命題の逆・対偶に ついて理解し、対偶を利用した証明について知る。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	数と式、集合と命題、2 次 関数、図形と計量及びデータ の分析における基本的な概 念、原理・法則などを体系的 に理解し、基礎的な知識を身 に付けている。		数と式、集合と命題、2 次関 数、図形と計量及びデータの分 析において、事象を数学的に表 現・処理・推論し、その過程を 振り返り、多面的・発展的に考 える力が身に付いている。		数学の各分野において、その 内容に関心をもつとともに、数 学の良さを認識し、それらを事 象の考察に活用して数学的な 考え方に基づいて判断しよう とする。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学 習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に 評価する。					

教 科		理 科	科 目	科学と人間生活	単位数	2
学 年		1 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		高等学校 科学と人間生活（第一学習社）				
副教材（出版社）		新課程版 ネオパルノート 科学と人間生活（第一学習社）				
授業の概要		教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	序章 科学技術の発展 第Ⅰ章 物質の科学 第1節 材料とその利用		・科学技術の発展が人間生活にどのように貢献してきたか理解する。 ・日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類、性質、及び用途について理解する。 ・プラスチックや金属の性質や特徴、分子構造について学習し、物質の再利用方法について理解を深める。		
	2 学 期	第Ⅱ章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象 第Ⅲ章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用		・DNAの構造、タンパク質の合成、血糖濃度の調節、免疫のしくみについてについて理解する。 ・熱の性質やエネルギーの変換と保存、有効利用について理解する。 ・温度、熱の伝わり方、仕事とエネルギーについて学習し、エネルギー資源の有効利用について理解する。		
	3 学 期	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害 第Ⅴ編 これからの科学と人間生活		・日本列島の成因、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。 ・自然災害について学習し、防災について科学的に理解する。 ・これまで学習してきたさまざまな項目に関する課題を設定し、科学的に調査・研究を行い、論理的にレポートを作成して、的確にプレゼンテーションする。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	科学の発展による人間生活への貢献、現代の人間生活との関連性についての知識を身に付け、これからの人間生活と科学のあり方について理解する。		身近な生活の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論理的に考える		観察、実験の技能を習得するとともに、身近な事物・現象に関心をもち、科学的な視点・考察力を養い、科学技術に対する関心を高める態度を身に付けている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	2
学 年		1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）					
授業の概要		心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにする。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていく。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにする。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養う。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにする。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ			・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行う。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていく。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づく。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにする。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・スポーツの発祥と発展について学ぶ。		
	2 学 期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ			・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開する。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・スポーツの発祥と発展について学ぶ。		
	3 学 期	7 陸上競技（長距離走） 男子 5000m と女子 3000m の記録測定 8 体育理論Ⅲ			・ペースを調整しながら長い距離を走ることで体力を高め、自己記録を更新できるように挑戦する。 ・スポーツの発祥と発展について学ぶ。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。			自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		保健体育		科 目	保 健	単位数	1
学 年		1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）					
授業の概要		保健の見方・考え方を働かせながら、合理的、計画的な学習過程を通して、日頃の生活の中で自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための実践力を身に付けていく。					
授業の目標		1 自他や社会の健康・安全のための課題を解決するために、思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 2 健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	2 安全な社会生活 （1）事故の現状と発生要因 （2）安全な社会の形成 （3）交通における安全 （4）応急手当の意義とその基本 （5）日常的な応急手当 （6）心肺蘇生法 1 現代社会と健康 （1）健康の考え方と成り立ち （2）私たちの健康のすがた （3）生活習慣病の予防と回復			・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であること、また、交通事故には責任や補償問題が生じることを理解する。 ・傷害や疾病に際しては、心肺蘇生法などの応急手当を行うことが重要であり、応急手当には正しい手順や方法があることを理解する。 ・健康の考え方やその保持増進の方法は国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が重要となっていることを理解する。		
	2 学 期	（4）がんの原因と予防 （5）がんの治療と回復 （6）運動と健康 （7）食事と健康 （8）休養・睡眠と健康 （9）喫煙と健康 （10）飲酒と健康 （11）薬物乱用と健康 （12）精神疾患の特徴 （13）精神疾患の予防 （14）精神疾患からの回復			・生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和がとれた生活の実践及び喫煙、飲酒に関する適切な意志決定や行動生活が必要であることを理解する。 ・薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないことや医薬品を正しく使用する必要があることを理解する。 ・精神疾患とは、心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解する。		
	3 学 期	（15）現代の感染症 （16）感染症の予防 （17）性感染症・エイズとその予防 （18）健康に関する意思決定・行動選択 （19）健康に関する環境づくり			・感染症の予防は、対策が必要であることを理解する。 ・適切な意思決定や行動選択により、自らの健康を適切に管理することが必要であることを理解する。 ・適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、人間関係などを含む社会環境が関連していることを理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	芸 術		科 目	音 楽 I	単位数	2
学 年	1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)		高校生の音楽1 (教育芸術社)				
副教材(出版社)						
授業の概要		音楽の諸活動を通して、創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高め、音楽を愛好する心情を養う。音楽の組み立て方の把握と表現との関わりや、簡単な旋律の創作、タブレット端末による創作表現を体験する。				
授業の目標		音楽の諸活動を通して、創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高め、自ら音楽作品や総合芸術に積極的にふれあい、生涯にわたって音楽を愛好する心情を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容(単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	・校歌 ・リコーダー実習1 ・のぼら ・カロ・ミオ・ベン ・DTMの実習1 ・J.S.バッハ		・校歌の意義を認識し、歌詞の意味や表現に親しむ。 ・アルトリコーダーの演奏の基本を理解する。 ・原語歌詞に親しみ、感情豊かに歌う。 ・楽曲の歌唱と鑑賞を通してイタリア歌曲に親しむ。 ・ドラムシーケンサーの入力に親しむ。 ・バッハの作品を鑑賞し、バロック様式の音楽に親しむ。		
	2 学 期	・和音と旋律 ・故郷 ・モーツァルト ・リコーダー実習2 ・DTMの実習2		・和音を利用して旋律や対旋律を創作する。 ・季節に合った楽曲を歌い、歌う喜びを感じ取る。 ・時代背景やオペラなどの作品の背景を知る。 ・アルトリコーダーの演奏に親しむ。 ・ドラムシーケンサーに加え、ピアノロール画面の入力に親しむ。		
	3 学 期	・ボレロ ・情景描写の音楽 ・DTMの実習3 ・日本の伝統音楽		・オーケストラの楽器とその音色を知り、その響きの豊かさを味わう。 ・情景描写の音楽(標題音楽)の代表作品の鑑賞をする。 ・名曲の特徴を絶対音楽と標題音楽の視点から味わう。 ・データの打ち込みに加え多重録音の機能に親しむ。 ・雅楽や、能・狂言を鑑賞し、その心情や音楽と舞踊の日本的な美を味わう。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりと、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	芸 術		科 目	書 道 I	単位数	2
学 年	1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		書道 I （教育出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
授業の目標		1 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 2 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 3 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 オリエンテーション		・中学校で学習した書写の学習内容を確認し、書写を基礎としながら、新たに書への視野を広げ、書道の学習の意義や目標を理解する。 ・各古典を鑑賞し、それぞれの古典の作者や時代背景を理解する。 ・楷書の基本点画、線質の表し方、結構や字形の取り方を学習する。 ・代表的な古典を鑑賞し、作者や時代背景に関する理解を深める。		
		2 楷書				
		3 行書				
	2 学 期	3 行書		・古典の特徴を把握し、行書の基本的な用筆法を学習する。 ・逆筆・藏峰を学習する。 ・篆刻を通して、書を刻す文化を学習する。 ・仮名の成立と変遷を理解する。 ・仮名の基礎を学ぶことにより、流動美、紙面構成を学習する。		
		4 篆書				
5 篆刻						
3 学 期	6 仮名		・自らの思考や感動を表現できる「ことば」を選び、漢字や仮名の特徴を理解し、用具、用材や形式、構成などの表現方法を工夫し、作品を制作する。			
	7 漢字仮名交じりの書					
	適宜					
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。		主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	外国語		科 目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3
学 年	1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科		
教科書（出版社）		Big Dipper English Communication Ⅰ（数研出版）				
副教材（出版社）		DataBase3300(桐原書店)・21 ディッパー英文法（数研出版） New エキスパート英語検定練習問題集 3 級(桐原書店)・Elixir 1(啓隆社)				
授業の概要		1 予習で分からなかった箇所の説明を聞いてノートにまとめるとともに、内容に対する理解を深める。 2 音読練習で英語の発音に親しみ、ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、情報や考えなどを伝えたり理解する基礎的な力を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	Introduction 1 Introduction2 Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast Lesson 2 A Mascot with a Mission Grammar for Expression 1 Lesson 3 Two Kinds of Leadership		・辞書の使い方、英語の発音・アクセントを理解する。 ・朝食の大切さ、レシピ特有の表現を理解する。 ・過去形・現在形・未来表現・現在完了・現在進行形・命令文を習得する。 ・町おこしのキャラクターの役割、新聞記事の表現を理解する。 ・文型 1(SVC・SVO)・不定詞・動名詞を習得する。 ・受動態・関係代名詞 who・which・that 文型 2 (SVOO・SVOC)を学習する。		
	2 学 期	Lesson 4 Older Sports and Newer Sports Grammar for Expression2 Lesson 5 AI Meets the Arts Lesson 6 What Is Happiness? Grammar for Expression3 Lesson 7 The Maldives: A Dream Destination?		・新旧スポーツの歴史と魅力、ブログの読み方を理解する。 ・最上級・比較級・原級を理解する。 ・芸術の世界に進出する AI、インタビューの読み方を理解する。 ・分詞（名詞修飾）形式主語（It is ～that, It is ～to do）を習得する。 ・世界の人々の「幸福度」の違い、意見文を理解する。 ・過去完了・関係副詞 where・when を習得する。 ・人気の観光地が抱える問題を理解する。		
	3 学 期	Lesson 8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream Grammar for Expression 4 Lesson 9 From Recycle to Upcycle Lesson 10 Diversity at Japanese companies Grammar for Expression 5		・世界的なメイキャップアーティスト Kazu Hiro を理解する。 ・プレゼンテーションの読み方を理解する。 ・関係副詞 how・関係代名詞 what・強調構文(It was ～ that …)を習得する。 ・ゴミ再利用の新しい形、意見文の読み方を理解する。 ・つなぎ表現・分詞構文 1 「～するとき」現在完了進行形を習得する。 ・日本の会社における雇用の多様性、求人広告の読み方を理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	語彙や言語材料の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。 事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understanding の言語材料、Hints の語句を用いて伝え、相手からの質問に答える技能を身に付けている。		各 Part 本文の内容について、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり書いたりしている。自分の考えをわかてもらえるように、意見や感想を Hints の語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。		本文の内容について、理解を深めるために、概要や要点を把握しようとしている。また、自分の考えをわかてもらえるように、Hints の語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。	
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりと、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科		商 業		科 目	ビジネス基礎	単位数	2
学 年		1 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		ビジネス基礎（東京法令出版）					
副教材（出版社）		ビジネス計算実務検定模擬テスト 2 級・1 級（東京法令出版） ビジネス計算実務検定模擬試験問題集 2 級・1 級（実教出版）					
授 業 の 概 要		商業を学ぶ重要性和と学び方、学習分野について理解するとともに、経済活動とビジネスに関する知識を身に付けます。ビジネスと流通活動に関する基礎的な知識を習得するとともに、ビジネス計算に関する知識と技術を習得します。					
授 業 の 目 標		ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員として望ましい心構えを身に付けるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応できる能力と態度を習得します。また商業を学ぶ重要性和と学び方、卒業後の進路などについて主体的に考え、意識を深めます。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 章 商業の学習とビジネス 第 6 章 取引とビジネス計算 第 2 章 ビジネスに対する心構え			・ 商業を学ぶ重要性和と学び方について理解する。 ・ 商業の学習内容の全体像を把握し、学習分野とその目的とする能力や科目の構成を理解する。 ・ 流通活動における売買取引及び仕入原価、売価、利息、外国貨幣の換算の必要性を理解し、計算技術を習得する。 ・ 生産・流通・消費に関する諸活動を理解し、市場で価格が決定することを理解する。 ・ ビジネスにおける基本的マナーや人間関係構築の意義、ビジネスに対する望ましい心構えを学習します。 ・ ビジネスの場面に応じたコミュニケーションの方法を理解する。		
	2 学 期	第 3 章 経済と流通 第 6 章 取引とビジネス計算 第 4 章 企業活動			・ 生産から消費に至る役割の分担の変化や、小売業の種類や卸売業の役割を理解する。 ・ 売買契約成立の手順や文書の作成、小切手や手形、クレジットカードの仕組みについて理解する。 ・ 電子商取引の仕組みと分類、代金決済の方法を理解する。 ・ 個人企業から多様な企業形態を通して、共通してみられる経営組織の体系を理解する。 ・ 資金調達の方法や財務諸表の役割について理解する。		
	3 学 期	第 5 章 身近な地域のビジネス			・ 税の仕組みや日本の雇用形態について理解する。 ・ 身近な地域の課題や、地域ビジネスの動向について理解する。		
点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスに関する技術を身に付けている。			ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力が養われている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	簿 記	単位数	4
学 年		1 年		類 型	流通経済科・地域ビジネス科		
教科書（出版社）		高校簿記（実教出版）					
副教材（出版社）		全商簿記実務検定問題集合格ガイド3級（東京法令出版）					
授 業 の 概 要		簿記の基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。					
授 業 の 目 標		1 企業において発生する取引を仕訳し、勘定科目を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 2 帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第Ⅰ編 簿記の基礎 第Ⅱ編 取引の記帳と決算Ⅰ			・ 簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 ・ 資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。 ・ 現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 ・ 3分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。 ・ 第Ⅱ編で学習したいろいろな勘定科目の意味を理解し、正しい仕訳ができるようにする。		
	2 学 期	第Ⅲ編 取引の記帳と決算Ⅱ 第Ⅳ編 帳簿・伝票 第Ⅴ編 取引の記帳と決算Ⅲ			・ 約束手形と為替手形の違いを理解させ、これらの手形の授受に伴う記帳法を理解する。 ・ 帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、帳簿種類の立案について理解する。 ・ 普通の売買取引と対比させながら、それぞれの取引の特徴を十分理解する。		
	3 学 期	第Ⅵ編 本支店の会計 発展編 株式会社の記帳			・ 支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 ・ 未達事項の意味と、その整理法を理解させる。 ・ 株式会社と個人企業との記帳方法の違いについて理解する。 ・ 繰延資産の意味と種類について理解する。 ・ 剰余金の処分、社債、税金の記帳について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられたか。		取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養うことができたか。		企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができたか。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	情報処理	単位数	4
学 年	1 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		情報処理（実教出版）				
副教材（出版社）		情報処理検定模擬試験問題集 3 級・2 級（実教出版） ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3 級・2 級（実教出版）				
授 業 の 概 要		ビジネス文書の作成や表計算ソフトウェアの活用を中心に、ビジネス情報の処理と分析及び活用、情報モラルとセキュリティ管理について学習する。				
授 業 の 目 標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 章 企業活動と情報処理 4 章 ビジネス文書の作成		・情報を学ぶ意義と役割、重要性を理解する。 ・コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解するとともに、ICT 人材に求められる役割と能力情報モラルの基本的な考え方や態度について理解する。また、企業における適切な情報処理について理解し、関連する技術を身に付ける。 ・ビジネス文書を作成するために必要な基礎的・基本的知識と技術を習得する。		
	2 学 期	2 章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 3 章 情報の集計と分析		・情報通信ネットワークの構成や利用形態の概要を理解する。 ・表計算ソフトウェアの特色を理解し、ビジネス情報の処理に活用するための基礎的・基本的な知識と技術を習得する。		
	3 学 期	5 章 プレゼンテーション		・ビジネスに関する情報の収集・処理・分析を行い、報告書や提案書を作成し、プレゼンテーションを行うために必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見出すことができるようにしている。		企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組むことができるようにしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					